

2022 12/27・2023 1/10合併号

No.2177・2178

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
—神奈川政経懇話会—



2023年の干支「卯（う＝うさぎ）」をデザインした干支だるまが出番を待っている。ウサギが跳ねるように「運氣上昇を」と生産者は願う。



contents

視点点描	3
増税なら信を問うのが筋	
講演録	4
「メタバースとは何か」 中央大学国際情報学部教授 岡嶋 裕史	
デモクラシーの現場から	8
揺らぐ「専守防衛」— 戦後政策の転換	
くらし	10
「2023年内政展望」 社会保障の財源論 次なる焦点か 医療、年金、介護、子ども・子育て	
政治双眼鏡	14
永田町は「三頭政治」か 岸田氏、麻生氏、そして茂木氏	
風まかせ筆まかせ	15
「形の見えないもの」への不安が転じるまで	
企業最前線	16
今どきの自動販売機 進む多様化 一般医薬品やベビー用の紙おむつ、「社長のおごり」も	
くらし 2023	18
気付かず進む緑内障 「定期的に検査を」	
かながわTODAY	20
2023年主な予定	
神奈川景気データファイル	22

事務局だより

◇2023年1月の講演会・見学会
1月12日(木)午後3時00分～
5時00分

関東学院大学 横浜・関内
キャンパス901教室(横浜市
中区万代町1丁目)

講師：関東学院理事長
規矩 大義氏

演題：「関東学院大学・関内進
出への覚悟」

見学会：講演(約60分)後、同
キャンパスの見学会(40～50
分)を予定しています

◇2023年2月の講演会

2月17日(金)午後2時30分～
3時30分

新横浜プリンスホテル4階「若
菜」(新横浜駅近く)

講師：相模鉄道社長
千原 広司氏

演題：「相鉄の都心直通プロジェ
クトについて」

(講演前に20人限定で新横浜
駅見学会を予定＝抽選制、見
学会の申し込みは1月6日まで)

※新型コロナの感染拡大の状
況によって中止する場合があ
ります。

視点 点描



増税なら信を問うのが筋

1兆円強を賄うという。

臨時国会の最終盤で突然浮上した「増税」である。首相は「今を生きるわれわれが将来世代への責任として対応すべき」と言うけれど、国民を守るための防衛費負担が足元の暮らしを圧迫するのは本末転倒だ。

そもそも現行の1・5倍を超え43兆円の防衛予算は妥当なのか。日本を取り巻く安全保障環境は予断を許さないとはいえ、反撃能力の保有は専守防衛の議論を置き去りにしていると言わざるを得ない。

戦後70年余り堅持してきた安全保障政策の大転換でありながら、結論ありきで軍拡に道を開いた。財源を巡る議論も生煮えのまま増税に突き進んでいる。

歴代内閣で増税は「鬼門」とさされてきた。一般消費税を初めて掲げた大平首相は直後の衆院選で大敗し、竹下首相が消費税を導入した

後の参院選は宇野内閣の退陣につながった。消費税率引き上げを断行した橋本政権も参院選で大敗を喫し、安倍政権は引き上げ延期を余儀なくされた。

それなのに、岸田首相は何のためらいもなく増税に踏み切った。自民党内にも反発の火種がくすぶっているというのに、得意とする「聞く力」を発揮する気配もない。どうしてもやり遂げると言うのなら、衆院を解散して国民の信を問うのが筋だろう。

暗いニュースが相次いだ2022年。物価高騰で冷え切った足元の暮らしに、新たな税負担がのしかかろうとしている。ピルの隙間にある喫煙所も悲壮感が増してきた。「来年こそは…」年の瀬になるといつも口にする禁煙の誓いが、切実な悲鳴に聞こえてくる。

(神奈川県新聞社報道部長

香川直幹)

寒さが染みる季節。喫煙者を取り巻く環境は一段と厳しさを増している。とりわけ「憩いの場」を屋

外に追いやられた愛煙家には、つらい日々だ。きょうも冷たい風に凍えながら、震える手で紫煙をくゆらす。狭いスペースで聞こえてくるのは、「なぜ、これほど肩身がせまいか」「高額納税者だというのに」

といった嘆き節である。しかし今、そんな冗談も笑えなくなってきた。

岸田首相が防衛費強化に向けた財源の一部に、たばこ税などを充てる方針を打ち出した。法人税と東日本大震災の復興特別所得税も合わせ、2027年以降に必要となる毎年度4兆円の追加財源のうち